

日本工業刃物株式会社

お客様、そして業界の発展に貢献する 工業用刃物のパイオニア

事業内容

各種自動包装機械用刃物製造
食品加工機械用刃物製造
紙加工機械用刃物製造
日刃標準規格刃物製造元

知的財産権と内容

特許第6347871号	切断装置および小袋連続体処理装置
商標登録第1837621号	ニッパ 区分07
商標登録第1663020号	日本工業刃物株式会社 区分07
商標登録第0881283号	NIPPA 区分08
商標登録第1410821号	NIPPA 区分07

(2023年10月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 青木 康哲 さん

刃物一筋

～お客様に寄り添う工業用刃物～

1947年の創業以来、刃物の製造一筋で事業を展開してきた当社。キャラメルを量産化したいという菓子メーカーの依頼を受け、キャラメル製造機の丸刃カッター、包装機のナイフ製造を開始したことを機に、今日まで工業用刃物の製造を数多く手掛けている。1965年、工業用刃物の標準規格を独自に制定。同規格は現在も刃物業界で広く浸透している。青木社長は「人と人とのつながり」を大切にしながら自社製品の販促活動を行うことをモットーに、商品を一方的に勧めるのではなく、お客様からの相談に耳を傾けることに重きを置いているという。現在は伝統ある規格品と、各種業界に適したオーダーメイドの工業用刃物を製造。創業から蓄積してきたノウハウと伝統の技術を活かし、顧客のニーズに寄り添った製品を作り続けている。

お客様のニーズから生まれた初めての特許

青木社長が初めて特許の出願を行ったのは2018年。取引先の企業から、新たにオーダーメイドの製品を作りたいと依頼を受け、その製品で共同出願を行ったのが始まりであった。当初、顧客のアイデアを実現できるかどうか難しいと感じていたという青木社長。技術部門と製品化の実現に向けて協議を重ね、無事、製品化に成功した。この時点で取引先企業から特許の共

同出願について打診があったという。これを受け、青木社長は特許の出願を承諾し、取引先企業と共に初めての特許取得を行った。

業界に発展に寄与したいという想い

創業以来、多くのカッターやナイフの製造を行ってきた当社。工業用刃物製造の根底には、「業界の発展に寄与する」という想いがあった。1社のみで独占的に刃物の製造をすると、業界の技術の進歩に歯止めをかけてしまうことを懸念し、複数企業での製造を進めたという。それ故、1965年頃に開発した規格品も、あえて特許の申請は行わず、他社が使えるように“標準規格”とした（JIS規格とは別）。当時は知財取得よりも工業用刃物業界の発展に寄与することが第一義であったが、これは現在も継承されており、製品カタログには商品情報が細かく開示されている。このように業界の発展に大きく寄与してきた当社は、高い信頼を獲得。現在は包装業界を中心に年間650社～750社程度の取引があるという。また、当社ロゴのNIPPAの刻印で様々な業種に名が知れ渡り、製造現場で愛用される製品となった。地道に業界の発展に寄与する姿勢こそが、業界内外を問わず、信頼を獲得し、今日の発展に繋がっている。

知財取得における苦悩

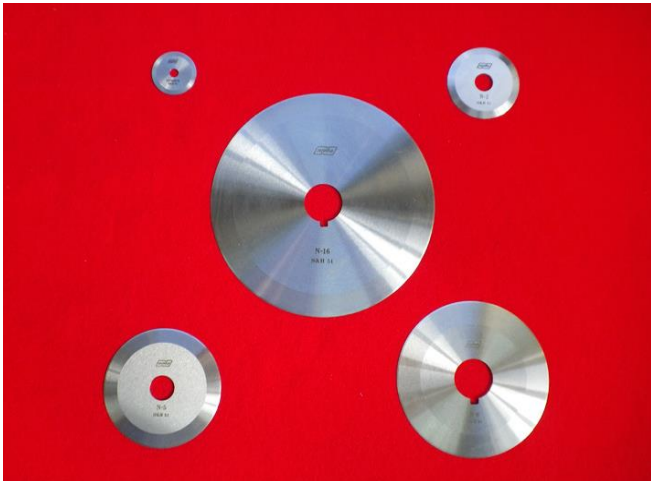


共同出願で特許を取得した当社であるが、その共同特許には苦悩もあったという。大きな悩みとなっているのが製品の販売についてであり、「今回の共同特許の場合、取引先の機械に取り付けるカッターであるため、当社独自での販売を行うことができない」と語る。また、15年以上前の話ではあるが、ある取引先より相談を受け、製品の技術開発を行った当社。当初は同技術の共同特許を望んでいたが、取引先との協議をした結果、共同特許の出願を断念し、当社は製造権のみを得るということで契約に至った。その後、取引先は単独で特許を取得。これまで当社がカッター製造を受注していた中、さらなる開発品については競合他社にも相談をされてしまうという苦い経験があった。

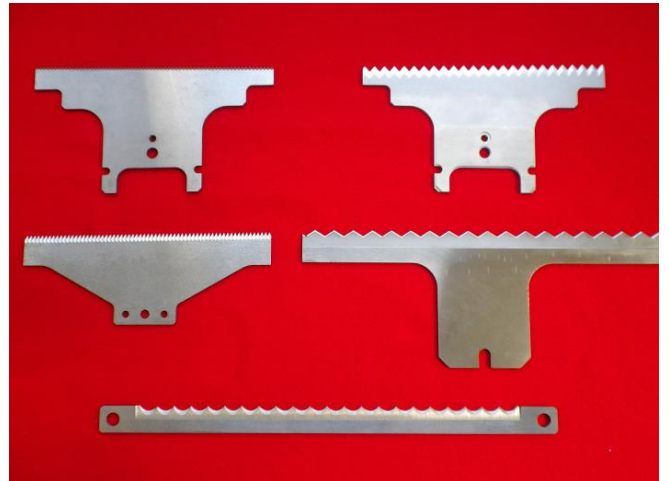
知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

青木社長は「創業時から知財取得よりも業界の発展に重きを置いていたが、取引先からの要望に応じて技術の共同開発を行うと、双方の複雑な利害関係が絡み合うがそれ故に、共同特許の難しい面に当たることもある。それでも出願申請においてお客様との繋がりを作れるのが良いことだ」と語る。取材時にも「お客様の役に立てたのであればそれでいい」と、常にクライアントファーストの発言が多く聞かれた。共同特許の申請・取得という壁をとともに乗り越え、取引先との関係性をカタチにして継続できることに大きなメリットを感じている。どんな時も常にお客様の要望に応える青木社長の姿勢が、信頼関係の構築や製品開発技術の蓄積などに結びついている。近年は業界の展示会にも積極的に出展し、当社技術力のさらなる認知度向上や新たな販路開拓に尽力している。



NIPPA規格品「丸ナイフ」



工業用特殊刃物（オーダー品）突き刺し切断型



知的財産活用のポイント

「人とのつながり」と 「製品開発」のつながり

当社は現在、共同特許と独自の規格品を武器に事業を行っている。個社とのつながりは共同特許で、業界全体とのつながりは規格品製造で構築してきた。先代も大切にしていた「人とのつながり」を青木社長も受け継ぎ、顧客ニーズに合わせた製品の

製造を手掛けている。また、メリットは「つながり」だけではない。取引先からのヒントをもとに商品開発を行うことで、新たな知識の蓄積にも繋がっているという。蓄積された知識は次に開発する製品に活用し、さらなる技術の発展を図っている。共同特許を、顧客・業界とのつながりの証とし、自社の技術発展のためのプラス要因として捉えながら知財活用を行っている。

COMPANY DATA

取材：2023年10月

所在地：東京都台東区小島2-18-16 日刃ビル2階 電話番号：03-3861-5941

URL：<https://iiet.com/> 創業：1974年1月 資本金：1000万円 従業員：25名（製造部門）、15名（営業部門）

